

僕たちはそろそろ
カスタムブロック開発の後方互換が
辛い問題に立ち向かわなければ
いけない。



自己紹介



- 大橋直記 / Naoki Ohashi
- Engineer / VK Blocks ・ VK Blocks Pro
- 本州最南端在住

Twitter: [@naogify](https://twitter.com/naogify)



今日話すこと

VK Blocks ・ VK Blocks Proに後方互換テストを導入（中）した
その経緯と実装方法について。

ブロックが壊れた経験ないですか？

This block contains unexpected or invalid content.

Attempt Block Recovery

...

テスト



ブロックは壊れやすい

ブロックのDOM構造を変更すると壊れる

旧

```
save({ attributes }) {  
  return (<div>Alert Block</div>);  
}
```

新

```
save({ attributes }) {  
  return (<p>Alert Block</p>);  
}
```

後方互換を保つには

```
// 互換性を保つコードを追加する必要がある。

registerBlockType('example/alert', {
  ...
  deprecated: [
    {
      attributes: {
        ...
      },
      save({ attributes }) {
        return (<div>Alert Block</div>);
      }
    }
  ];
}
```

課題

- ブロックが壊れた報告がきた場合、**コミット履歴から、過去バージョンごとにテスト**していく必要がある。
- チーム開発時に **「後方互換処理が動作」の確認コスト** がバカにならない。

辛すぎる…。

確認コストに時間が取られて、**新規開発ができない。**

Gutenbergは、
どうしているのか...🤔？

コアの後方互換テスト調べて実装してみた。

テストのサンプルコードをGitHubで公開。

<https://github.com/vektor-inc/block-test-kit>



テストファイルの構成

```
root/
├── src/
│   └── index.js、edit.js等 (ブロック本体)
├── test/
│   └── e2e-tests/fixtures/blocks/
│       ├── block-test-kit__alert.html (ブロックデータ)
│       ├── block-test-kit__alert.parsed.json (ブロックデータパース後)
│       ├── block-test-kit__alert.json (ブロックデータJSON)
│       └── block-test-kit__alert.serialized.html (ブロックデータシリアライズ化)
├── integration/full-content/full-content.test.js (後方互換テストファイル)
├── utils.js (テストに必要な関数)
└── page.json 等環境設定ファイル
```

テストの概要

各バージョンのブロックのデータを、
投稿が保存されるフローをコードで再現してブロックが
壊れないか確認。

Version 1.0

```
<!-- wp:block-test-kit/alert --><p>Alert Block</p><!-- /wp:block-test-kit/alert -->
```

Version 0.9

```
<!-- wp:block-test-kit/alert --><div>Alert Block</div><!-- /wp:block-test-kit/alert -->
```

デモ



テスト内容

```
import { parse as grammarParse } from '@wordpress/block-serialization-default-parser';

// block-test-kit__alert.html を パースした結果と、
const parserOutputActual = grammarParse( htmlFixtureContent );

// block-test-kit__alert.parsed.jsonとを、
const parserOutputExpected = JSON.parse( parserOutputExpectedString );

//比較してテスト
expect( parserOutputActual ).toEqual( parserOutputExpected );
```

詳細なテストの手順はこちらのブログを参考に

<https://www.vektor-inc.co.jp/post/deprecated-test-for-custom-block/>



×リット

- レビューの効率化（確認コストが段違いに減る!）
- フォーラムへのバグ報告数減（予定）
- 新規開発の時間の確保

ありがとうございました

